

印刷雑誌 JAPAN PRINTER

特集 印刷管理とインキ装置の周辺

- 印刷管理有益活用術
- UVインキ自動供給
- 特殊コーティングロールの特性
- メンテナンスと印刷指導の価値



2017

September

印刷学会出版部 発行

■本や文字を見つめる■

文字もじMOJIの世界(新連載)
装幀あって、書物

メンテナンスと印刷指導の価値

民報印刷

新聞輪転機で新聞を刷っていた会社がオフセット枚葉カラー印刷を始める。それも枚葉印刷のベテランオペレータなしで。たまにはあるパターンかもしれないが、印刷現場はなかなか大変だ。それが、メンテナンスの専門家で様変わりする。

福島の(株)民報印刷(二瓶盛一社長,社員31人)もメンテナンス会社のおかげで軌道にのった一社である。

新聞輪転の印刷会社が枚葉を

民報印刷は、地方紙『福島民報』の福島民報社から、1965年に分離独立して発足した。当初の社員は7人。印刷機を持たず、営業会社としてスタートした。

その後、1977年にハマダ「チャンドラー 32型」オフセット3色輪転印刷機を導入し印刷も手掛けるようになる。1996年にはゴスグラフィックシステムズのカラーオフセット新聞輪転機「SSC」を導入。これは現在でも、業界新聞や高校の学校新聞などを印刷している。ここまでは、新聞オフセット輪転印刷会社として実績ができあがり、技術的に大きな問題はなく過ごしてきた。

そして、新聞オフ輪でできない印刷物を作りたいこうと、2006年3月にアキヤマインターナショナル製菊全判8色両面(表裏4色)印刷機「JPrint」、ロール紙を自動にカットしてフィダー部に給紙するハイニックス製(ロール紙、枚葉紙兼用タイプ)ロールフィダー「RF-40S」の組合わせで設備した。

そして、大きな壁に当たった。

枚葉印刷の壁

同じカラー印刷でも新聞輪転機と枚葉機ではまったく違った。当時は、輪転機を知るスタッフが4人。枚葉オフセット印刷は初めてだった。そのため、通常の平版オフセット枚葉印刷が簡単にいかないのである。

最初は1日の通し枚数が5000枚などの日もあったという。刷って行って、印刷障害に直面してもトラブルシューティングがわからない、ロール紙の扱いはわかっているが、枚葉紙の特性もわからない。メーカーからのアドバイスはあったものの、初の枚葉機であるため疲弊や苦労の連続である。そうして、4年の月日が流れた。

2010年5月、タケミ(株)とメンテナンス契約を交わした。民報印刷は、タケミ創業者の柴崎武士社長に声をかけ、柴崎氏は民報印刷の枚葉印刷技術を指導することになる。

タケミは、同年2月に「印刷現場のメンテナンス・印刷指導で印刷会社を助ける」を目的に創業したばかりだった。



写真は排紙側だが、給紙にロールフィダー(ロール to シーター)を設置。輪転機用の紙も併用でき、枚葉機は仕事の9割以上は巻取紙を使っている

当初は1年契約で、タケミは毎月1週間、民報印刷に足を運んだ。民報印刷の経験の浅いオペレータは、最初の3ヵ月は基本を学んだ。4ヵ月目から着実に実行するよう指導された。トラブル対策や調整も覚え、9ヵ月目からは実行の確認。その年に入社したオペレータもあり、その彼は今ではなくてはならない存在になっている。

メンテナンス指導の価値

当然だが、メンテナンス会社にメンテナンスや指導を頼むのは有料である。自社内で行えば社外に出る経費はかからないが、なかなかそううまくはいかないから、メンテナンス会社やコンサルタントと呼ばれる人たちがいて、印刷会社のために指導や助言に当たっている。

現在は、2ヵ月に1度、タケミに訪問してもらっているが、枚葉印刷専門のオペレータ1人を雇ったと思えば、メンテナンスや指導に経費と時間をかけるべきだと納得した。それが今でも続いており、功を奏している。

「今年5月に新人オペレータを採用し、これまでタケミから指導してもらったノウハウを、先輩オペレータが新人オペレータを教えるという好循環になっています」(青田正彦・印刷部部長代理)。現在では難しい印刷物も何ら問題もなく、簡単にオペレーションしている。現場は20歳代が中心の若いスタッフだ。

指導と教育

民報印刷の枚葉印刷機はダブルデッカーの両面8色機の水あり印刷なので通常ファンアウトを起こしやすいがそれもなく、ダブリもなく余計な調整もなく(工具などを使わず)、見当は問題なく合っている。タケミは、印刷機をリセットするようなイメージで指導している。たとえば、湿し水を絞るとような助言も当然するが、日増しに

オペレータは増やす傾向になってしまう。そのところも含め、2ヵ月に1度元に戻す指導となる。

タケミも、ただ単に自分たちの経験を押し付けるのでなく、理論や理屈から改善の説明をするようにしている。

民報印刷の印刷部員は、今では、タケミに育ててもらったような状況になっている。「現場のオペレータたちには、年に1~2回は印刷業界の展示会を見学するようにしています。同じタイプの印刷機を使っている会社にも見学にいかせています」(二瓶社長)と、社員教育がタケミを中心にうまく回っているようだ。

現在、民報印刷は、自社ではできない後加工は協力会社に依頼しているが、前工程は、DTPから富士ファイルのCTP出力まで対応し、チラシ、パンフレット、社内報、自治体広報紙、業界紙、タウン誌、ポスター、福島民報社発行の書籍を含めた各種出版物などの製作・印刷を主力としている。

一方タケミは、創立してまだ浅い企業だが、印刷機のメンテナンスと印刷の指導を行う専門家集団として、全国各地を飛び回り、印刷会社のサポートを行っている。(編集部 N)

編集アシストセット

編集・校正の便利ツールを集約！
人気急上昇アイテム!!!

— セット内容 —

1. 編集校正便覧
(観音開き 8ページ)
2. 級数表・歯送り表
(クリアファイル)
3. オフセット印刷
見本資料
(A4 両面カラー)

商品は <http://japanprinter.thebase.in> より注文できます